

2018年11月議会 観光振興対策特別委員会

2018・11・28 今井光子議員の質問

*議会の資料から作成したもので公式の会議録ではありません
日本共産党奈良県会議員団

ムジークフェスト

今井光子議員 ムジークフェストのことですけれども、これ、今、どれくらい集客につながっているのかということと、債務負担行為で7840万っていうのが今回出てますけれども、来年のムジークフェストは全てこれでいけるのか、まだ新たに予算つける必要があるのか、そのあたりをお尋ねをしたいと思います。

桐田文化振興課長答弁 ムジークフェストの集客及び予算の関係でご質問をいただきました。まず、集客の状況でございますが、今年度実施させていただきましたムジークフェストにおきましては、実行委員会主催のコンサート、こちらのほうで来場者が約11万5000人という形になってございます。

一方、予算でございますが、先ほど次長から説明させていただいたとおり、まずは今年度の補正予算、それと両年度、今年度と来年度にわたる事業ということで債務の補正予算、あわせて、今のところは来年度、31年度の当初予算として、3つの構成で予定してございます。

今井光子議員 ありがとうございます。ムジークフェストの31年度当初予算で、3つの構成でということ、幾らかというのをちょっともう一度教えていただきたいと思います。

桐田文化振興課長答弁 改めまして、平成30年の補正予算が1340万、債務負担行為が7840万、来年度の当初予算として今現在予定してございますのが1820万、合計1億1000万となっております。

今井光子議員 ムジークフェストのほうが1億1000万円ということはわかりました。ムジークフェストはちょっとPRが、私は足りないんじゃないかなっていう気がするんですけども、今やってるの、というような、そんな感じで。

それだけ、やはりたくさんのお金をかけているのであれば、今、奈良に来たらどこでも音楽があらわれてるとか、というようなことをもっとうまくPRをして、集客に結びつける必要があるのかなと思います。

4年目を迎えた大立山まつり

今井光子議員 大立山まつりですけれども、4年目を迎えることになると思うんですが、これも計画を見させていただきますと、参加するほうは暖かい時間に参加できるので少しは参加しやすくなるかなということも思いますが、当初、冬場の観光客を増やすということで始まったお祭りかと思えますけれども、これによって、何を目指して祭りをこれからしていくのかというようなこととか、予算面ではどういうふうになっていくのか、その辺のことをお尋ねをしたいと思います。

福井ならの観光力向上課長答弁 大立山まつりの関係で3つご質問いただきました。まず1点目の、今年度の実施する大立山まつりの目的、狙いということでございます。今回4回目ということで、

これまでいろいろ取り組み方法を検討しながら毎年続けてきたとごさいます。今年度につきましては、3月に開場いたしました「朱雀門ひろば」も最大限活用しながら、新たなものを取り組んでいこうということで、あわせて、この7月の第1回の実行委員会の際には、民間の委員の方に参加いただきまして、実行委員会の運営のあり方についても民間主導でやっていこうということで検討してきてるところでございます。

それが今回の実施計画というところになってるわけですが、委員のお述べのこの冬場の宿泊観光客ふやすという目的については全然変わっておりません。その取り組みの方法としていかにあるべきかということは今検討した中で、なおかつ、やっぱり会場、ないしは季節的に非常に寒い季節であるといったことも考慮しながら、旧来の取り組みを変更せずに、新たなコンテンツをふやしながら誘客につなげるようにと考えております。

それで、この会場だけではなく、実際に県南部、東部にいろんな方に行っていただきたいと、回っていただきたいという思いもございまして、先ほどございまして、例えばバスツアーの実施でございまして、県内の3つの日本遺産の紹介といったものも具体的に盛り込んで目的を達したいと考えてるところでございます。

それと、予算でございまして、今回、7月9日に本年度の予算案といったものを実行委員会のほうでご議論いただきました。その中で、昨年度1億2000万であったものを、今年度は県からの負担金も含めまして実施するということで、全体の予算につきましては9170万5000円というような形で組んでるところでございまして、昨年度よりは3000万ほど減っておりますけれども、可能な限り精査しながら実施したいと考えているところでございまして。

今井光子議員　大立山まつりは、愛称が親しみやすくするためにという「奈良ちとせ祝ぐ寿ぐまつり」というのをを出していただいているんですけども、ちょっと覚えにくいという印象がありまして、愛称にするんだったらもっと短く親しみやすいというのにしないと、何ていう祭りやったかなっていうようになるといけないような、これは私の印象ですけども、そんなふうに思います。

それから、古代の正月の行事、「御齋会」、ゴサイカイですか。これ、どんなものなのかっていうのを教えていただきたいと思います。

それと、これ、地場産業の販売というところに宇陀の毛皮革と御所のヘップが出てくるんですけども、例えば広陵の靴下とか、何かもう少し地場産業というのを広げるというようなことを考えられているのか、その点をお尋ねしたいと思います。

福井ならの観光力向上課長答弁　まず、愛称の件でございまして。これまで第1回から3回目までは「奈良大立山まつり」ということで実施してきております。今回も、名称につきましては大立山まつりで変更ございせん。

ただ、非常にかたいというか、大立山というところで何をするのか目的がわからないといったご意見が、今回4回目を計画する中でいろいろ意見が出てまいりまして、その中で、一度、愛称的なものをこしらえてはどうかということで、いろいろ検討したところでございまして。

せっかく奈良でやるわけですから、奈良にふさわしいような名前ということで、先ほど局長の説明もございましたように、万葉歌人である大伴家持の1つの歌を引用しながら、末永く長寿を祝うような、そのような祭りになろうということで、「祝ぐ寿ぐまつり」というふうにしたところでございまして。非常に長いということは承知しておりますけれども、この名前一つが、例えばいろんな親しみやすさといったものを生むのではないかと考えてるところでございまして。

それから、御齋会（ごさいえ）、ないしは御齋会（みさいえ）ということではございまして、これは奈良時代の後半から始まった行事でございまして、実際のところ、称徳天皇が宮殿で正月に行われた行事、そういったものを一応再現してみようということで今、企画してるところでございまして。そういう歴史の研究者にも今回、民間委員として入っていただいておりますので、そういう方々のご意見をいただきながら、当時の衣装でございまして、例えば礼冠とか礼服といったものを再現しながら、皆さんに見ていただくということを考えてるところでございまして。

今井光子議員　せっかく民間に委託をしていろんな知恵を集めておりますので、こうした名所一つにいたしましても、もっと公募をして、県民の関心を集めるとか、そういう中でいろいろ進めていくというような取り組みというの必要なのかなと思います。

それから、別のことでちょっと伺いたいと思いますけれども、先日の連休のときに大変な交通が渋滞してたということで、木津のあたりから全く車が動かなくなったという苦情の電話を私のほうもいただいたんですけども、ちょうど奈良少年刑務所のところの見学会などもありまして、ちょうどとてもいい観光シーズンでしたので、奈良に行きたいという方がたくさんおられたのではないかなと思っております。

県西部や南部の観光振興

今井光子議員 奈良の観光を見ますと、どうしても奈良市内っていうのかね、県の統計でエリアを分けていたのをちょっと見させていただきましたが、これ28年の資料ですけれども、Aエリアっていうのが奈良市、山添村という区域で36.5%がこちらに行かれてる。Bが県西部で、私の地元なども入っておりますが、そこは13.6%。Cの県の東部、天理とか橿原、桜井、宇陀ですね、それから高取、明日香と、こちらの方面は41%と、こちら割と人気のエリアかなと思います。それから、あと南部のほうは8.9%ということで、県西部と県南部の集客が少ないように思いますけれども、今、いろいろバスツアーなども企画をしてということですが、もっとそうしたところのよさを引き出していきたいなということを思っております。

世界各国でもインバウンドで観光客がふえておまして、地元の人々の日常生活に観光客が押しかけることで大きな影響を与えているということがこの間テレビでも報道されておまして、各国の取り組みでおもしろいなと思ったのが、イギリスではMr. ピーンが余り人が行かないスポットを紹介して、人を誘導させているとか、そんな取り組みもあるということを知りましたけれども、もう少し県全体のいいところを紹介して、奈良だけに集まらないようなそういうことも必要かなと思います。これについて、もし何か考えておられることがあったらお尋ねしたいと思います。

街道観光プロモーション課長答弁 県の西部、南部方面等を含めまして、県全体の観光のプロモーションの観点でご答弁させていただきます。

奈良の観光のプロモーションの考え方でございますけれども、以前、先生からご質問いただきましたときにお答えさせていただきましたけど、まずは奈良に来ていただくということで、大きな核となる行事を目玉に据えて、観光のプロモーションを図るところでございます。ただいま興福寺の中金堂のほうで落慶いたしましたので、これを軸にしまして全国展開して、まず奈良に来ていただくという取り組みを、まずしておるところでございます。

そこから各地に回っていただく取り組みといたしましては、「奈良うましめぐり」というのでございまして、各社寺とかいろんなアクティビティーとか、そういったものの商品開発をしていただきまして、それをピジターズビューローから各旅行会社のほうに商品というような形でご紹介をいただきまして、商品説明会というような形のことをさせていただいて、各地への伝播っていいですか、波及を図るところでございます。

それとあと、直接、南部のほうに行ってくださいような取り組みといたしましては、県内版の「デスティネーションキャンペーン」というのでございます。

昨年度は天川村を中心にさせていただいたところでございますけれども、今年度は明日香エリア、桜井とか明日香エリアを中心としたキャンペーンを12月の下旬から3月の下旬で実施する予定をしております。直接そこに入らせていただいて、市町村が行うイベントと連携し、また交通事業者のご協力もいただきながら、駅とかバス、そういったところでの大々的なキャンペーンをお願いする、そういうような形の取り組みをさせていただいてるところでございます。

もう1点、イギリスの取り組みとして、Mr. ピーンが隠れた名所を訪れてというお話ございましたけれども、県といたしましては、これまでからも「ファミトリップ」という、招請旅行というような形になりますけれども、海外のメディアの方でありましたり、ブログのプロガーの方とか、あとそういった形で、情報発信のインフルエンサーといいますが、伝播力を持った方をお呼びして、奈良の隠れた魅力を発掘していただくような取り組みをしております。先日も大手海外のメディアの方ですとか市議さんですけれども、宿坊体験とかさせていただいた、そのご案内とかもさせていただいて、そういったことをメディアを通じて発信していただいて、それを全世界に届けると、こういった取り組みをさせていただいてるところでございます。

登大路バスターミナル

今井光子議員 バスターミナル、外の枠がとれまして、概要が見えてまいりました。バスターミナルのイメージ図ですね、以前にいただいたこのイメージ図見ますと、ちょっと今のと随分感じが違う、緑がずっと周遊されているんですが、今のはここに壁があるんですけれども、このことはどんなふうになさるようとしているのかなというのをお尋ねしたいなと思います。

